

## 2 平成20年度 主な事業

平成20年度は、4つの目標達成のため、次の主要事業・施策に取り組みます。

### 『自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり（活力）』

#### 【平成20年度の完成・供用、新規事業】

##### （直轄事業）

那覇空港の貨物ターミナル地区前において、増大する航空需要に対応するため、「那覇空港の整備（エプロン新設・改良）」を新規に着手します。

（P14）【空港】

国営沖縄記念公園首里城地区において、「奥書院」を新規に整備します。

（P15）【公園】

##### （補助事業）

南風原町において、土地区画整理事業による良好な市街地の整備と並行して、住民の憩いやレクリエーションの場を確保し、良好な都市環境を確保するため、「津嘉山公園（近隣公園）」の整備を新規に実施します。

（P16）【公園】

#### 【継続事業】

##### 代表的な継続事業（直轄事業）

- ・那覇港泊ふ頭地区大型旅客船ターミナル整備事業（耐震）（P17）
- ・那覇港那覇ふ頭地区臨港道路 空港線（P18）
- ・那覇港浦添ふ頭地区臨港道路 浦添線（P19）
- ・石垣港新港地区大型旅客船ターミナル整備事業（P20）

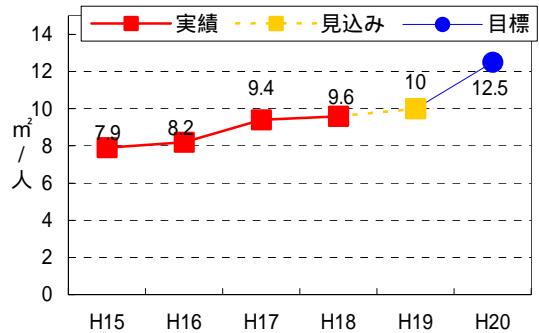
##### （補助事業）

- ・那覇港浦添ふ頭地区国内物流ターミナル整備事業（P21）

#### 【成果（指標）】

【指標】	H15（実績）	H19（見込み）	H20（目標）
沖縄都市モノレール利用客数 【平成15年度は目標値】	31,350人/日	38,000人/日	39,000人/日
復元・創出された砂浜の面積	約67ha	約98ha	約99ha
沖縄の港湾への大型クルーズ船の寄港回数	70回	約60回	約90回
都市公園の整備	7.9m <sup>2</sup> /人	10.0m <sup>2</sup> /人	約12.5m <sup>2</sup> /人

「都市公園の整備」の経年変化



(注) 指標の達成状況に関する注釈

【 指 標 】	注 釈
沖縄都市モノレール利用客数	H19 は見込値
沖縄の港湾への大型クルーズ船の寄港回数	那覇港、平良港、石垣港等、沖縄県内港における寄港回数
都市公園の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園面積は、国・県営公園については H19 年度末時点の供用面積、市町村営公園は実績値の推移から H19 年度末時点を推定。</li> <li>都市計画区域人口は、実績値の推移から H19 年度末時点を推定。</li> </ul>

『安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり（安全）』

【平成20年度の完成・供用、新規事業】

（直轄事業）

金武町において、洪水調節、既得用水の安定化及び河川環境保全等のための流量の確保、かんがい用水及び水道水の供給を目的として事業を進めている**億首ダム(現金武ダム)**の本体工事に着手します。 (P22)【ダム】

（補助事業）

北中城村の**熱田地区**において、斜面崩落の発生している箇所地域で地域の住宅、避難場所の安全を確保するため、「**熱田地区地すべり対策事業**」を**新規**に着手します。 (P23)【地すべり】

本部町の**渡久地地区**において、斜面崩落により民家、県道を保全するために急傾斜

地崩壊対策事業で整備を促進してきた「渡久地地区急傾斜地崩壊対策事業」の完成を目指します。  
 ( P 2 4 ) 【急傾斜】

【継 続 事 業】

代表的な継続事業（直轄事業）

- ・ 沖縄北西部河川総合開発事業 大保ダム ( P 2 5 )
- ・ 那覇港泊ふ頭地区大型旅客船ターミナル整備事業（耐震）〔再掲〕

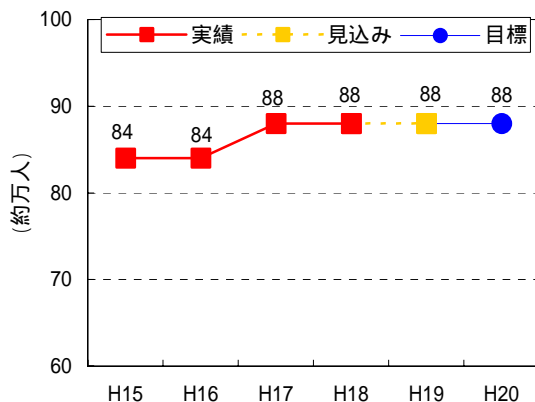
（補助事業）

- ・ 広域基幹河川改修 安里川 ( P 2 6 )
- ・ 安里地区特定緊急地すべり対策事業 ( P 2 7 )
- ・ 新川地区地すべり対策事業 ( P 2 8 )
- ・ 小谷地区地すべり対策 ( P 2 9 )
- ・ 伊原地区通常砂防事業 ( P 3 0 )
- ・ 東江海岸高潮対策事業 ( P 3 1 )

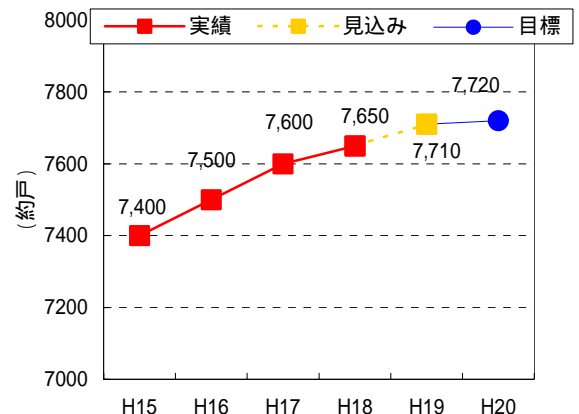
【成 果（ 指 標 ）】

【 指 標 】	H15（実績）	H19（見込み）	H20（目標）
ダムによる安定供給可能人口	約 84万人	約 88万人	約 88万人
洪水氾濫防止のために整備された河川の延長の割合	約 57%	約 61%	約 61%
土砂災害から保全される戸数、うち災害時要請援護者関連施設数	約 7,400戸 14施設	約 7,710戸 25施設	約 7,720戸 25施設
沖縄における耐震強化岸壁の必要量に対する現況の割合	20%	40%	約47%
重要港湾において不正進入を防止する施設を完備している外航船用の公共港湾施設の割合	0%	100%	100%

「ダムによる安定供給可能人口」の経年変化



「土砂災害から保全される戸数」の経年変化



(注) 指標の達成状況に関する注釈

【 指 標 】	注 釈
ダムによる安定供給可能人口	羽地ダムの H17 年度供用により、H19 年度の目標値は達成したが、将来の水需要増加に対応するため、億首ダム本体工事に着手するほか、大保ダムなどの事業を継続促進しているところ。
重要港湾において不正進入を防止する施設を完備している外航船用の公共港湾施設の割合	那覇港、平良港、石垣港、中城湾港、金武湾港における施設

『沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創出（環境）』

【平成 20 年度の完成・供用、新規事業】

【継 続 事 業】

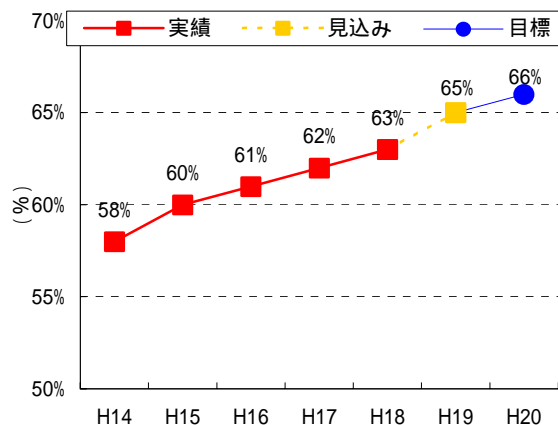
代表的な継続事業（補助事業）

- ・ 中部流域下水道 ( P 3 2 )
- ・ 広域基幹河川改修 国場川 ( P 3 3 )

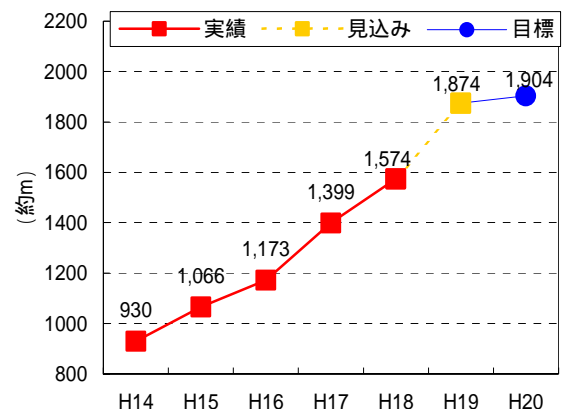
【成 果（ 指 標 ）】

【 指 標 】	H15（実績）	H19（見込み）	H20（目標）
下水道処理人口普及率	60 %	65 %	66 %
砂防施設により赤土砂等流出を軽減する箇所数	7箇所	8箇所	8箇所
失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺の中で再生した水辺の割合	約 28 %再生	約 40 %再生	約 41 %再生
サンゴ礁と共生する防波堤の整備延長	約 1,066m	約 1,874m	約 1,904m

「下水道処理人口普及率」の経年変化



「サンゴ礁と共生する防波堤の整備延長」の経年変化



(注) 指標の達成状況に関する注釈

【 指 標 】	注 釈
サンゴ礁と共生する防波堤の整備延長	平良港における環境共生型防波堤を対象とし整備延長については完成型として算出

## 『特性を生かした安らぎと活力ある地域づくり(暮らし)』

### 【平成20年度の完成・供用、新規事業】

(直轄事業)

名護市において、既存庁舎のバリアフリー化を推進するため、「名護税務署」のエレベーターの設置に**新規**に着手します。(P34)【営繕】

(補助事業)

名護市において、住戸の老朽化や住機能低下を解消するため「県営名護団地」の建替えに**新規**に着手します。(P35)【住宅】

糸満市において、住戸の老朽化や住機能低下の解消、防災上の向上等へ対応するために建替えを進めてきた「県営浜川団地」の**完成**を目指します。

(P36)【住宅】

### 【継 続 事 業】

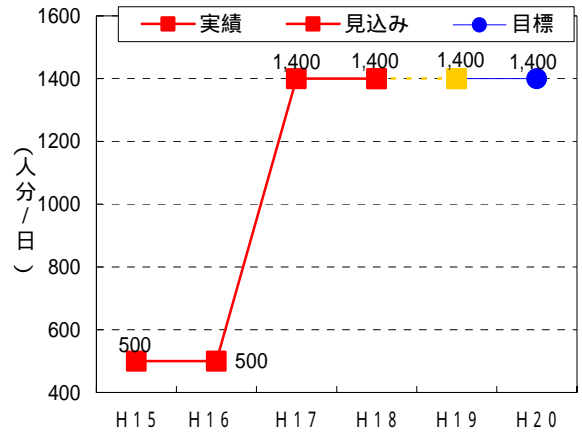
代表的な継続事業(補助事業)

- ・ 儀間川総合開発事業 (P37)
- ・ 石垣港本港地区離島ターミナル整備事業 (P38)
- ・ 広域基幹河川改修 国場川〔再掲〕
- ・ 広域基幹河川改修 安里川〔再掲〕

### 【成 果 ( 指 標 )】

【 指 標 】	H15(実績)	H19(見込み)	H20(目標)
より安全に港を利用できる利用者数	約300万人/年	約640万人/年	約640万人/年
港湾緑地の整備面積	約30ha	約60ha	約60ha
復元・創出された砂浜の面積(再掲)	約67ha	約98ha	約99ha
離島における生活用水を安定的に確保する	約500人分/日	約1,400人分/日	約1,400人分/日

「離島における生活用水を安定的に確保する」の経年変化



(注) 指標の達成状況に関する注釈

【 指 標 】	注 釈
より安全に港を利用できる利用者数	浮棧橋の整備進捗に加え、利用者数の伸び率が大きく上昇したことにより、効果が早期に発現された。
港湾緑地の整備面積	H18 臨港道路浦添線の緑地が整備中であり、今後整備が増加する一方、中城湾港などで港湾緑地の整備を進めているが、一連の施設が完了するまで効果が発現しない。
離島における生活用水を安定的に確保する	離島の生活用水確保のため、儀間川総合開発事業【儀間・タイ原ダム(久米島)】を継続促進しているところ。